

WITH

Arisawa communications magazine

vol.04



〔巻頭インタビュー〕

お客様に満足してもらおう提案力

そのために、全社員がアイデアを出し合う

小野 泰彦 有澤建設(株)取締役 工務部長

〔arisawaのリフォーム実績をご紹介します。〕

arisawa reform

〔お家探訪記〕

「ミルクリーク」に出会いました

〔技術開発一問一答〕

24時間空調システム

◎有澤建設委員会活動 ◎美しい家色

<http://www.arisawa.jp/>

arisawa

WITH

vol.04

発行日 2011年12月1日
発行 有澤建設株式会社 広報委員会 福岡市博多区博多駅前4-4-12

R100



品質管理
ISO 9001
認証取得



美しい家色

ファーンズワース邸

屋内に、あらゆる可能性を内包させるために

Stenwardt Skala

Vol.4

柱と梁を剛接合した「ラーメン (Rahmen / 骨組み) 構造」に、壁面全体を占める巨大なガラス窓。そして、壁による間仕切りを行わず、連続するひとりの空間として存在させたメインフロア。近代建築の三大巨匠の一人に数えられるドイツ出身の建築家、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ (Ludwig Mies van der Rohe) が、1951年に手がけた「ファーンズワース邸」の概要である。ミースが残した言葉の中に、「Less is more. (より少ないことは、より豊かなこと)」という一文があるが、この言葉の意味するところは、近代主義建築のコンセプトである「ユニヴァーサルスペース」つまり平面を最大限に広く使い、居室に特定の目的を定めぬ概念

そのものと言えるだろう。この建造物を手がける20年以上前から、彼はバルセロナ万国博覧会の「バルセロナ・パビリオン」、世界遺産文化遺産として登録されている「トゥーゲンツハット邸」(チェコ・1930年竣工)で、壁全体をガラス窓で覆い、室内には壁を設けない、斬新な設計思想を披露していた。しかしファーンズワース邸は、それまでのモダニズム設計思想に加え、建築用地内に自生していた樹木の陰影までも、室内のデザイン要素として採り入れるという大胆な設計手法により、数あるミースの建築物の中でも特に完成度の高い作品として、現在も多くの人々の賞賛を浴びている。

ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ *Ludwig Mies van der Rohe*

屋内空間に、あえて特定の目的を与えない。つまり、住人やゲストの行動を、「部屋」という縛りで抑制しない近代主義建築のコンセプト。ミースは、その設計思想の成立に、最も貢献した建築家と言える。

